

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校 令和4年度 自己評価報告書

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
1、教育理念・目的・人材育成像	1-1、理念・目的	1-1-1、理念・目的・育成人材像は定められているか	創設以来「産学共同・現場実践教育」の理念の下、プロとして活躍できる人材の育成は時代に合せて堅持。	企業課題やオーディションなど、適宜カリキュラムの中にその要素は取り入れて、体系的に編成されている。	理念維持のためには事業部はじめ業界との連携は絶対であり対応実務者には最新の有識者が必要。	各学科目指すべき職業の経験者を採用することを進めて来た。また個別に先端技術の習得にも励んでいる。	4
		1-1-2、学校における職業教育の特色は何か	変化の激しいエンタテインメント産業の状況に適切に応えるカリキュラムを準備する。	現役クリエイターの講師や事業部職員から常に情報入手しカリキュラムに反映している。	メディアの多様化など求められる技術は常に変化多様化しておりカリキュラムの修正は細かく対応が必要。	毎週の職員会議、半期に一度の講師会などで業界傾向は即座にカリキュラム化することを実践。	4
		1-1-3、社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	プロとして就職させる以外に人間的な成長やそのフォローを望むニーズは年々増して感じている。	個人指導が絶対的に必要であり悩みの相談や進路指導などはかなりの時間を費やしている。	業界企業以外の企業情報の収集、メンタルケアなど特殊な技能が職員には一定求められる。	参考文献の購入補助や、研修を定期的に実施しているが専門職員の雇用には至らず。	3
		1-1-4、学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	入学時には入試の一部として必ず面接を行い将来構想についての確認は行っている。	就学がハードな傾向になることは理解はしていても実際には適応していけないケースは出る。	常に担任が個別に就学レベルのチェックを行う必要があり、面談の機会が飛躍的に増えている。	担任とセクションリーダーが常に一体化し就学レベルに問題が見られた在校生に敏速なアドバイスを行う。	3

最終更新日：2023.6.12(月) / 文責：森憲司

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
2、学校運営	2-1、運営方針	2-1-1、目的等に沿った運営方針が策定されているか	「産学共同・現場実践教育」実現のため自社事業部の強化は常に取り組んでいる。	既存学科にまつわる企業課題の類は、その一定数を事業部提供のもののみで賄っている。	時代とメディアの変化とともにさらに範囲の広い事業展開が必要となって来ている。	学校と事業部との連携、情報交換の場はオンライン会議の普及などにより担保しやすくなっている。	4
		2-1-2、運営方針に沿った事業計画が策定されているか	短期・中期に分割して、明確なビジョンとともに常に点検、準備に取り組んでいる。	事業部運営は独立採算制で運営し、単体での業績アップ、学生への機会の創出は目標をクリアしている。	制作構造の問題もあるがゲーム部門における学生への企業課題等の創出が引き続き不足。	大阪のゲーム学科が中心となりカリキュラムに密着した新たな企業課題の構築を引き続き準備中である。	3
	2-2、人事	2-2-1、人事・給与に関する規定等は整備されているか	就労環境や人事方針・計画、給与規定は幾度の改善を経て、明確に規定化されている。	その点検も運営管理会議のレベルで常に取り上げ、改善点等はピックアップされている。	随分と改善されて来たとは感じるが充実した教育指導を行うには一定の労働時間は伴うものではある。	フレックスタイムの導入などにより、より効率的な勤務体制に近づき就労時間は減少している。	3
	2-3、組織運営	2-3-1、教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	セクションリーダーの明確化により、日常的な意思決定は敏速に体系的に行なっていく。	リーダーの管掌範囲が明確になり、よりタイムリーで密な報告、連絡、相談が実現できている。	さらにスピーディーな対応、反応ができるようリーダー間の情報共有も強化していく必要がある。	定期的なリーダーミーティングを通じ情報共有ケーススタディ等、管理職による指導を行っている。	3
		2-3-2、業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	規定、契約などくとくに学生活動が伴うものについては必ず確認、提示することを徹底。	いかなるケースにも対応できるレベルの法的根拠に基づいた規定の準備を進めている。	法務的なシチュエーションに明るい事務職員は専門には常駐していないのが現状。	今後の事務職員の人事方針の中に学校公務、法務経験のある人材の確保を織り込んでいく。	2
		2-3-3、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学生管理システムの導入が完了しており、全校的に効率化を図る準備が進んでいる。	運用モデルはおおよそ完成し、具体的な運用に入っている。更なるブラッシュアップは必須。	入試、教育、進路の情報が体系化されたレベルで全職員が簡単に享受できるように完成させる。	より簡単にスムーズに必要な全職員が情報にアクセスできるシステム作りを進める。	3
	2-4、情報公開	2-4-1、教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	常に正確に、ありのままに基づいた情報公開していくことを第一の理念としている。	公平、正確に教育活動等は運営がなされており、また情報の開示も各所に行っている。	実習が多いなど一般の教育活動とは相違する点も多く、より掘り下げた情報の開示は必要。	保護者に向けた学校生活の報告などは手紙、ネットワークを通じ告知している。	4

最終更新日：2023.6.12(月) / 文責：森憲司

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
3、教育活動	3-1、目標の設定	3-1-1、教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	本校の教育理念に基づき、関連業界と連携し即戦力となる人材の育成に向けた教育過程の策定と指導を実践する。	毎年度末に教務部長・学科担任及び講師間で教育方針の共有を行い、業界のニーズに対応できる授業編成を行っている。	時代の流れが早く、次代のニーズを先取りしたシラバスの作成が急がれる。	都度、専門知識をもった人材を登用し授業計画書及びシラバスの策定を行い、業界の動向に即応できる体制を整えていく。	4
	3-2、教育方法・評価等	3-2-1、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	学生の目指す進路に合わせ、業界・現場で必要とされる知識・技能を体系的に習得するカリキュラムを策定する。	業界に知見のある教員・講師により、毎年カリキュラムの見直しを図られている。	より高度な専門性を持つ業界関係者による助言を取り入れる余地がある。	「教育課程編成委員会」などで業界の変化に対応するカリキュラム編成を行っていく。	4
		3-2-2、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	グループ校や関連企業の協力を得てインターンシップを創出し、現場での実践的教育を実施する。	グループ校、事業部及び協力企業でのインターンシップの経験により、卒業までに多くの学生が目指す業界での現場経験を持つことが出来ている。	より広範な企業との協力関係を築き、多岐に渡る業界でのインターンシップのチャンスを創出していく。	卒業生が在籍する企業との連携強化や、関連業界の新規企業との関係構築を図っていく。	4
		3-2-3、関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか	学生の目指す業界で活躍する講師からの情報を反映し、最先端のスキルが習得できるカリキュラムを編成する。	職業実践専門課程の申請に向けて講師会にて「教育課程編成委員会」の確認と協力を要請している。	業界の動きを素早くキャッチし、最新の情報に基づくカリキュラムのアップデートを常時進めていく必要がある。	協力企業や教育課程編成委員会を通じて得た情報をシラバスに落とし込み、業界のニーズを反映したカリキュラムを構築していく。	4
		3-2-4、関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	開校以来の「制作現場こそが最高の教育現場である」という理念を基に、「産学共同・現場実践教育」実現の為に環境を整えている。	学科の特性によりインターンシップの実施に偏りが見られ、今後検討すべき学科もある。	インターンシップに繋がりがづらい学科について、現場経験を踏むチャンスを得ずらい学生がいる。	関連業界との連携や新規企業の開拓により、より広範な業界との繋がりを創出することで学生の現場実習のチャンスを広げていく。	3
		3-2-5、授業評価の実施・評価体制はあるか	授業の改定・教職員研修・講師のリクルーティングにより、常に質の高い効果的指導が行える体制を整備する。	毎年「授業評価アンケート」を実施し授業の精査を行っている。内容は講師と共有を行い、都度指導の改善を図っている。	対応が学科ごととなり改善にバラつきがあるため、学校として組織的に取り組む必要がある。	情報公開に向けて各学科の評価を総体的に確認し、評価基準を明確化していく。	4
		3-2-6、職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校評価委員による「学校関係者評価委員会」を年2回実施し、客観性を維持していく。	3名の外部委員を選任し、ご意見・アドバイスを頂戴している。	外部評価委員が固定化傾向にあるため、より幅広い視点での助言を取り入れる必要がある。	外部評価委員の増員等により多くの提言を頂くことで、客観的な評価を頂ける体制を整えていく。	3
		3-2-7、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価と単位認定、進級・卒業判定の基準はシラバスにも記載し公表され、学生にも入学時に説明がなされている。	前期成績判定会議と進級判定・卒業認定会議を実施し、そのスケジュールは年度初めに周知されている。			4
	3-3、資格試験	3-3-1、資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	目指す業界・職種において有用な資格がないため、取得を推奨する資格・免許などはない。	現状、カリキュラムに資格取得に特化した科目を取り入れてはいない。	今後、学生が目指す業界において資格取得が必要となった場合、カリキュラムの修正が必要となる。	就職活動の際に有利になる、又は取得することで評価される資格などがないか、常に業界の動向を見極めていく。	3
	3-4、教職員	3-4-1、人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学生が目指す業界でのデビューや就職に必要な知識や技術が習得できるよう、専門知識をもった教員が授業を担当する。	業界に精通し、実務経験のある講師を招聘している。	業界で長く活動されている講師層が増えたため、若手・中堅層を起用し活性化を図る必要がある。	講師からの紹介や業界の第一線で活動している卒業生を講師として登用し、最新の業界動向を踏まえた授業を展開していく。	4
		3-4-2、関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行なわれているか	職員全体のスキルと意識の向上を目的とした社内研修を年間数回スケジュールリングして実施する。	毎年、関連業界の第一人者による企業研修を実施し、教員の専門知識の習得と学生指導のスキルUPを図っている。	業界未経験のスタッフに対する、更なる専門性の向上のための対策が必要である。	従来からの研修に加え、協力企業などによる外部研修などを実施し、関連業界における幅広いスキルを身につけていく。	4

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
4、学修成果	4-1、就職率	4-1-1、就職率の向上が図られているか	本校はエンタテインメント・コンテンツ制作業界を支える人材の育成を目的としており、その集大成ともいえる就職率向上のための取り組みは特に重要と考えている。	1年次から就職ガイダンスや進路面談を実施している。コロナ禍以降、面談や履歴書添削はオンラインでも対応可能な体制となっている。令和4年度は学内説明会を40社、クリエイター面接（模擬面接）を30社実施した。	学内での採用イベント来場者は、クリエイティブ業界のなかでも採用人数が多いゲーム企業、アニメ会社が大部分を占めている。就職率向上のためには、他の業界にも対象を広げていく必要がある。	デザイン・広告企業を対象としたクリエイター面接を今年夏に実施予定。また動画配信クリエイター学科（新設）向け施策として、就職先の候補となる企業も新規に開拓する。	4
	4-2、資格・免許取得率	4-2-1、資格取得率の向上が図られているか	就職において有利になる資格・免許がないため、積極的な取得は推奨していない	資格・免許取得のための全学的な取り組みはおこなっていない。			2
	4-3、卒業生の社会的評価	4-3-1、卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	求人の方針、教員の候補者開拓の観点からも、業界で活躍する卒業生の動向把握は必要と考えている。	卒業生への接触は就職相談・転職相談をはじめとした取り組みが中心となっている。	卒業生との関係については、職員と卒業生の個別の繋がりによって成り立っている場合も多く、組織的な情報収集には至っていないと感じる。	コロナウイルスの感染が収束しつつあるため、卒業生向けのイベントも再開したいと考えている。令和4年3月卒業生の連絡先と進路情報は学生管理システムに入力しているが、過去の卒業生情報も入力することで、一元的に管理できるような準備を進める。	2
		4-3-2、卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	エンタテインメント・コンテンツ業界のニーズに沿った人材育成は、重要な課題と捉えている。	本校の教育システムは、卒業生の就職先企業をはじめとした産業界からも高い評価を得ていると感じる。	希望の進路に就けた卒業生や、その就職先からは概ね高評価を頂戴している。その反面、希望通りの進路が叶わなかった学生にも同様に細やかなサポートが必要と感じる。	クリエイティブ業界以外の企業、いわゆる一般企業のなかでも継続的に内定者を輩出している企業と、良好な関係を築けるように働きかけを継続する。	3

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
5、学生支援	5-1、進路・就職等	5-1-1、進路・就職に関する支援体制は整備されているか	教育の集大成ともいえる進路・就職に関する支援体制整備は特に重要と考えている。	キャリアセンターの職員3名が学科ごとに就職ガイダンス、進路面談、企業採用担当との窓口を担当することにより、責任を明確化している。声優学科は担任が進路オーディション・就職に関する支援を担当している。	就職に関する学生のニーズが多様化している。ライター職や広告業界、中四国地方へのUターン就職、障がい者求人に関する相談が増加傾向にある。	令和4年度は左記にあるような企業にも内定者を輩出することができた。学生の満足度向上のため、希望者が少数の分野においても支援できる体制を引き続き整えていきたい。	4
		5-2-1、学生相談に関する体制は整備されているか	相談内容に合った窓口の担当により、適切な対応が取れる体制を整備している。	学校生活に対する相談は担任が、事務的内容については事務局スタッフが対応し、双方で情報の共有を行い学生状況を把握している。	昨今増えている、心身に関する専門的な知識を必要とした対応が必要な場合のバックアップ体制が不十分である。	専門家による相談窓口を整備するとともに、学内研修を実施し職員についても対応可能なスキルを習得していく。	3
	5-2、学生相談	5-2-2、学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	優秀な志願者の入学や学生の就学継続のため、多様な経済事情にあわせた学費納入方法の相談等の経済的支援は不可欠である	志願者には、授業料一部減免を受けられる特待生入学・AO入学・推薦入学等で、優秀な学生の進学を支援しており、オープンキャンパスやホームページ等で制度の周知に努めている。日本学生支援機構奨学金の奨学金や高等教育修学支援新制度についても、ホームページや書面等の通知で周知に努めており、制度の利用者は増加傾向にある。状況に応じて、国の教育ローンや教育クレジット等の提案や学費納入延期の相談も行っている。	経済的困窮者が増加傾向にあるため、既存の制度だけでは進学・進級を支援しきれない場合もある。また、修学支援制度は、事務手続きが多く学生への指導の負担も大きいと、より一層の教務と事務方の連携が必要と考える	職員のさらなる知識の向上と連携に努め、適切で厳正な支援制度の運営すると同時に、学生や保護者への情報提供も徹底していく。	4
		5-2-3、学生の健康管理を担う組織体制はあるか	学校健康法に従い、毎年外部医療機関での学生の健康診断を実施。	年1回の健康診断を実施している。また既往症についても申告があるものは学生管理システムで把握し、職員間で共有している。	学内に校医の常駐がないため、地域医療機関との連携が必要になってくる。	健康管理を担う組織体制については、今後も検討を続けていく。	3
		5-2-4、課外活動に対する支援体制は整備されているか	目指す業界の特性からクラブやサークル活動は行わず、作品制作・舞台発表などに向けた課外活動を優先する。そのために学校の設備の提供と教員講師による支援を行う。	就職・デビュー活動に向けた課外時間での作品制作と稽古のために、学校の施設・設備・機材の貸し出しと職員によるサポートを行っている。	コロナ禍の期間に始まった課外活動支援の施策については、今後も継続するものと通常運営に戻すものを決めていく必要がある。	施策の整理を行いふさわしい課外活動支援の方法を検討していく。	3
		5-2-5、学生の生活環境への支援は行われているか	遠方からの進学者に対して、安心して生活できる住環境を提案する。また新型コロナウイルス等、授業の進行に影響の出る恐れのある感染症等に対し、学内予防対策の徹底を行う。	協力企業と連携し、進学者のニーズに応じた住環境の情報を提供している。また保護者や協力企業とも連携し、学内外での学生情報の把握と共有を行っている。	今後留学生を受け入れるにあたっては、従来とは異なる対応が必要になる事も考えられる。情報収集に努め、生活環境支援を行えるよう対応してゆく。	適切な情報提供や、協力企業、学生課、教務での情報交換や相談体制を継続して行っていく。	3
		5-2-6、退学率の低減が図られているか	定期面談により学生状況を把握し、問題の早期解決を図る。また進級・卒業への懸念のある学生については、保護者と連携しフォローを行う。	各学年で面談期間を設け全学生と面談を実施している。また就職・進路時期や日常において、必要に応じ個別の面談を実施し適切な指導を行っている。	学科によっては1名の担任制の為、時期によっては対応に時間を要することがある。	学生管理システムを活用し、効率的な学生状況の把握を行っていく。またこれにより、担任以外の職員でも対応ができるよう、組織的に学生状況の共有を進めていく。	4
	5-3、保護者との連携	5-3-1、保護者と適切に連携しているか	保護者とは必要に応じ電話やメールにより学生状況の共有を行う。また定期的に発行する学校通信を通し、学校運営状況を発信していく。	授業の出席状況や面談で判明した問題点については、速やかに保護者と連携し対策を講じている。また定期的な制作発表会を開催し、学習面での成長をを確認頂く機会を設けている。	仕事の都合などで連絡が取れにくい保護者との連携については、今後手段を検討していく必要がある。	学校HPの保護者向けページを活用すると同時に、年間数回お送りする「保護者だより」を通し、学校との連携の意識をもって頂けるよう取り組んでいく。	4
		5-4-1、卒業生への支援体制はあるか	卒業生が登録する「OB・OGネットワーク」でのスキルアップ研修や就職支援、或いはグループ事業部が制作するコンテンツへの参画によるデビューサポートを行っていく。	卒業時に「OB・OGネットワーク」に登録をもらい、定期的な研修や名刺交換会を実施している。またグループ事業部の制作するコンテンツに卒業生を起用することで、作品出演のチャンスを出している。	業界進出者と業界以外に進路を取った卒業生に対し、サポート面での実績の差がある。	学生が志望する業界への就職・デビューが難しい学生へのサポート体制の構築を強化していく。	3

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
6. 教育環境	6-1. 施設・設備	6-1-1、施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	学生が目指す業界の現場に近い教育環境を整えていく。	毎年度、施設・設備の更新を継続している。	IT機器やソフトウェアの進歩が速く、幅広く利用されるようになったため、機材の拡充が必要と思われる。	施設・設備の更新の頻度を高めていく。またICT機器の配布教材化などを視野に入れ検討を行う。	4
		6-1-2、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	建学以来の「産学共同・現場実践教育」の精神に基き、グループ内での作品制作により現場実習を充実させる。	外部企業との連携、或いはグループ内事業部でのコンテンツ制作により、多くのインターンシップのチャンスを創出する。海外研修については実施検討はない。	学科の特性上、インターンシップへの関りが難しい学科もありチャンスの偏りが見られる。	業界とのパイプを活かしながらグループ内だけに留まらず学生にインターンシップへの参加の機会を増やしていきよう各種団体にも働きかけていく。	4
		6-1-3、防災に対する体制は整備されているか	学生や職員の安全のため、万全な避難計画や備えが必要である	コロナ禍により、全学生参加の避難訓練は実施せず、学生オリエンテーションにて避難経路や心構えを指導している。	避難訓練の再開、大規模災害に備えた備蓄に取り組みたい	令和5年度から全校生の避難訓練を再開	3

最終更新日：2023.6.12(月) / 文責：6-1-1～6-1-2下間正巳・6-1-3飯間陽子

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
7. 学生の受入れ募集	7-1. 募集活動	7-1-1、学生募集活動は、適正に行われているか	入学希望者および保護者には、エンタテインメント業界における具体的な就職状況や仕事内容についての情報提供を積極的に実施し、不本意入学等のミスマッチが無いように努めている。	進学ガイダンスや中高生対象の独自出前授業にて進路サポートを行っているほか、オープンキャンパス内での業界クリエイターによる職業体験など真実性のある説明を実施している。			4
		7-1-2、学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	入学希望者と保護者が十分に判断できる材料を提供するために、真実性や明瞭性・法令遵守に配慮した情報の開示・公開を実施している。	卒業生の活動状況や在校生の就職実績速報を学校パンフレットやホームページなどで掲載・説明を実施している。			4
		7-1-3、学生納付金は妥当なものとなっているか	就職先である業界の状況や社会情勢等に即した金額の検討および決定が必要であると考えている。	主には関西圏における専門学校の状況や分野の基本的な水準を踏まえた学納金設定を行っている。	学納金設定に関しては、業界が求める人材像の変化に伴い、就業に必要なスキルを身に付けるための学習環境を整えるうえで、真実性・具体性・明瞭性の更なる追及が課題だと考える。	講師陣による勉強会や客観性を養うための外部団体による講習会への参加などを通して、その妥当性について検証していきたい。	3

最終更新日：2023.6.12(月) / 文責：朝日庸平

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
8. 財務	8-1. 財務基盤	8-1-1、中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	安定的な学生募集を継続し、財源の確保を確実なものにしつつ財務基盤の充実を図る	安定的な学生募集が継続されており、借入金も無く、財務基盤は充実している	将来の姉妹校や専門職大学の設立を想定した財務基盤のさらなる充実	安定的な学生募集を継続させ、適切な支出管理に努めたい	4
	8-2. 予算・収支	8-2-1、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算編成およびその執行については、寄附行為および経理規程に定めており、適切な手続きに基づき実行する	安定的な財務基盤に支えられて、有効かつ妥当な予算・収支計画となっている	概ね計画通りの予算・決算となっているが、一部差異が発生している項目については、適切な執行手続きを経る	差異の適切性は監事によって確認されている。今後は補正予算により精緻な予算管理を行う	4
	8-3. 監査	8-3-1、財務について会計監査が適正に行われているか	常勤監事が帳簿及び信憑書類の確認をするなど、会計処理と適正な財産管理を保証する	常勤監事が理事会出席等も行っており、会計処理、財産の管理などに問題は出ていない	現行の監事への学内協力体制を維持する	今後も、経営陣による財務管理、監事による監査が着実に行えるように務める	4
	8-4. 財務情報公開	8-4-1、財務情報公開の体制整備はできているか	学校法人としての情報公開には積極的に取り組み、法令に則った情報公開は順守実施する	適切な情報公開が行われている	情報公開のスケジュールの管理は、公開情報のアップデートも含め進行管理を向上させたい	適切な財務情報公開のためにも関連する決算、理事会・評議員会の開催などにも注意して行く	4

最終更新日：2023.6.12(月) / 文責：橋高雅彦

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
9、法令等の遵守	9-1、関係法令、設置基準等の遵守	9-1-1、法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	社会の変化に沿った基準を順守し、適正な運営を確保する	学校内での規程の整備などの遵守は確実になされている	細則化が良い訳では無いが、具体的な基準の明示には取り組んで行きたい	法人としての体制整備は引き続き進める	4
	9-2、個人情報保護	9-2-1、個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	事務局・教務における学生個人情報の対策を確実に取る	一般的な学校法人としての対応は満足できている	社会規範・基準の変化などに対応して行かねばならない	大阪府私学課や大専各などからの指導や情報などに注意しながら、対策には万全を期すようにしたい	4
	9-3、学校評価	9-3-1、自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	毎年、自己評価の実施および自己評価報告書を作成し、学校運営の改善を図ることを方針としている。	自己評価委員による自己評価報告書の作成と、新入生対象アンケートを実施し、課題点の抽出と改善に繋げている。			4
		9-3-2、自己評価結果を公開しているか	毎年、自己評価報告書を作成し、学校ホームページに公開・情報更新することを方針としている。	学校ホームページで公開している。			4

最終更新日：2023.6.12(月) / 文責：9-1～9-2橋高雅彦・9-3朝日庸平

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
10、社会貢献	10-1、社会貢献・地域貢献	10-1-1、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	自治体・公共機関・企業・中学校・高校等との専門分野を通じた社会貢献・地域貢献活動を積極的に行い、地域社会に信頼される専門学校を目指していきたいと考えている。	例年、声優学科学生が担当している淀川区成人式総合司会をはじめ、大阪府警察署の防犯啓発チラシポスターイラストデザイン協力や大阪府医師会主催デザインコンテスト受賞等、学科の特性を活かした活動のほかに中学校や高等学校への職業に関する講話などにも積極的に取り組んでいる。			4
		10-1-2、学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	ボランティア活動をアクティブラーニングや課題解決学習の場として推奨し、学生の人間力や学力向上に繋げていきたいと考えている。	学外から要請があればできる限り参画している。	2年という限られた修業年限において、学業及び就職活動と学生個人の状況に併せた進路指導を優先しているため、校内での積極的な案内告知に取り組めていない。	専属のボランティアコーディネーターや地域連携担当職員の設置など支援体制の整備を検討していく。	2

最終更新日：2023.6.12(月) / 文責：朝日庸平

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
11、国際交流	11-1、留学生の受入れ募集	11-1-1、留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	国籍問わず、業界のプロを目指すために意欲的かつ積極的に学業に励む事ができる人材を広く受け入れ、エンタテインメント産業の発展に貢献していきたいと考えている。	留学生からの資料請求やオープンキャンパス参加、オンライン相談などに対して、相談者の状況に即した個別対応や情報提供を随時行っている。	入学条件の見直しと留学生向け募集要項改定など、受け入れ体制の整備を進めてきたが、該当者は無く、具体的な国際交流には至っていない。	問合せ者対応だけではなく、日本語学校教員向けの説明会など、学校HP上で広く情報提供を行っていく。	2
		11-1-2、留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	文部科学省「外国人留学生在の在籍管理の徹底に関する新たな対応方針」に基づき、適切な在籍管理と手続き対応が行える体制の整備を目標としている。	入学条件の難易度の高さからこれまで該当者は無い。	実際の在籍管理や事務手続きに関する対応実績がないことから経験値に乏しい。	外国人留学生の留学審査手続きと申請取次にかかる研修会など、学校職員対象の研修会へ積極的に参加し、担当職員の対応力強化と受け入れ体制の整備を引き続き進めていく。	1
		11-1-3、留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整理されているか	グローバル社会で通用する人材育成を目的に学生の進路実現に向けた学習環境とキャリアサポート体制の整備を目標としている。	入学条件の難易度の高さからこれまで該当者は無い。	学習指導や生活サポートなど学内における対応実績がないことから経験値に乏しい。	教務部・キャリアセンターとの連携を強化し、適切な学習指導及び進路サポート体制の整備と確立を目指していく。	1

最終更新日：2023.6.12(月) / 文責：朝日庸平